

コラム 2024 年に取組を開始した事例

地域を守る！

▶普及啓発・人材育成

意識の向上、知識・ノウハウの普及を図る

006

レジリエンスを高めるために 実践的な防災スキルを楽しく学ぶ 「令和サバイバー養成キャンプ」

取組主体

レジリエントライフプロジェクト

参加法人数

想定災害

実施地域

17 法人

全般

全国

災害や社会変化などのあらゆるリスクに対するレジリエンスを高めるため、世代を超えた参加者が協力し合いながら楽しく実践的な防災スキルを習得する「令和サバイバー養成キャンプ」などの多様な取組を展開している。

1 取組の概要

- ・レジリエントライフプロジェクトは、生活者・企業・自治体のレジリエンスを高め、自助力・共助力の向上と「レジリエントライフ」の実現を目指し活動している任意団体であり、I-レジリエンス株式会社、タイガー魔法瓶株式会社、日本製紙グループ、株式会社博報堂、株式会社三菱総合研究所などの民間企業から構成されている。「レジリエントライフ」とは、同団体が命名し推奨する新しいライフスタイルであり、自然災害のリスクをはじめ、社会に起因するリスク、そして、個人に起因するリスクに至るまで、あらゆるリスクが生み出す困難を乗り越えるためのレジリエンスを高め、より豊かな生活を目指すものである。
- ・同プロジェクトは具体的に以下の4つのアクションを実施している。本事例集では主に災害時におけるサバイバル的な状況を体験する防災キャンプ「令和サバイバー養成キャンプ」について紹介する。

(1) コミュニティ活動 (RESILIENT LIFE_COMMUNITY)

- ・平時から地域内のコミュニケーションを促進・活性化させ、災害発生時にも自助・共助を円滑に行えるコミュニティ運営をサポートしている。具体例として、東京都多摩市と2024年4月に連携協定を締結し、「令和サバイバー養成キャンプ」や「リビングラボ」など、様々な施策を展開している。本キャンプは形骸化しつつある防災訓練ではなく、電気などのインフラがない生活困難な場所でのサバイバル体験を通じて「生きる力」をキャンプ形式で学ぶことができる。様々な年代、職業の人たちが混在したチームごとに「仲間づくり」「環境づくり」「心身の健康づくり」などを進めていき、初めて会う人と限られた道具で協力し合い、ピンチな状況をポジティブに乗り越えるスキルを習得できる内容となっている。

(2) 情報発信 (RESILIENT LIFE_PORTAL)

- ・生活者に防災のみならず日常でも役立つ知識を認知・浸透させることを目的として、読売新聞「防災ニッポン」など参画メディアと連携し、レジリエントライフに関する情報や取組を記事として発信している。また、2023年9月に神奈川県横浜市で開催された「ぼうさいこくたい2023」および2024年10月に熊本県熊本市で開催された「ぼうさいこくたい2024」でトークセッションを実施した。

(3) 商品・サービス開発支援 (RESILIENT LIFE_PRODUCT)

- ・生活者のレジリエンスを高める商品およびサービスの企画、開発、販売支援を行っている。

(4) 研究開発 (RESILIENT LIFE_THINKTANK)

- ・生活者のレジリエンスを測定し、可視化するための研究開発を行っている。

2 取組のきっかけと想い

- ・自然災害のリスクをはじめ、社会に起因するリスク、個人に起因するリスクなどが生み出す困難を乗り越えるためには、「困難を乗り越える適応力」を指す「レジリエンス」の向上が必須である。この力を日常生活から高めることは、個人の意識向上による自助と、自治体・企業連携による共助の力をも高め、結果として自然災害に対する対応力の底上げにつながる。世界が注目するキーワードである「レジリエンス」を、楽しみながら体現し習得できる仕組みを開発・提供したく、民間企業と自治体が協力・共創する形で同プロジェクトを発足した。
- ・中でも「令和サバイバー養成キャンプ」は、地域の防災訓練には、防災意識の高い人ばかりが集まることが多く、参加者が固定しがちであったという課題意識から、これまで防災訓練に参加したことのない人たちにも「ちょっと

面白そうだな」と気軽に参加してもらえるものにしたいという思いから始めた。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

避難訓練とは一味違う「令和サバイバー養成キャンプ」

- ・本キャンプは、「生きる力」をキャンプ形式で学ぶことを目的としたプログラムである。通常のサバイバルキャンプが非常時のサバイバルスキル習得に特化するのに対し、本取組では、平時からの備えや、初めて会った人同士のコミュニケーション・協働作業に重きを置いている点が大きな特徴である。また、段ボールテントやかまどなどの必要な道具は事務局側で準備するため、参加者は手ぶらで気軽に参加できるようになっている。全体を通して、防災を「楽しく、身近に」学べるよう、プログラムの随所に工夫を凝らし、従来の避難訓練とは異なる体験型の防災学習を提供している。

4 取組の効果

一人ひとりの防災意識の変化

- ・災害の備えは大切で何らかのアクションを講じるべきと感じているが、具体的な行動をしていない、または、どうすべきか分からないという生活者が多く存在する。「令和サバイバー養成キャンプ」を体験したことで、キャンプ参加後に、常に一定量の食料を家に備蓄しておくローリングストックを意識した購買や自宅のハザードマップの確認をするなどの行動に結び付いており、防災意識の向上につながっている。

世代間交流による新たな気付き

- ・地域コミュニティでの交流が希薄になっている地域において、「令和サバイバー養成キャンプ」を含めた同プロジェクトの活動により 10 代の若者と 60 代以上の高齢者間にも新たな交流が生まれ、コミュニケーションが活性化している事例が見られている。これにより、自然災害発生時や避難時でも地域住民が積極的に助け合うために、平時からコミュニケーションを取ることの重要性が再確認された。

周囲の声

- ・「『避難訓練』と聞くと敬遠しがちだが『キャンプ』と題しているので参加意欲がかき立てられた」（令和サバイバー養成キャンプの参加者）
- ・「普段あまり交流のない年代の方々でも、テント設営や炊飯など参加者同士が協力・声がけするプログラム構成となっており、自然に交流できたと感じている」（令和サバイバー養成キャンプの参加者）

担当者の声

- ・「令和サバイバー養成キャンプ」は参画企業間でのフラットな会話から派生したものであるが、私たち主催側だけでなく参加者の皆様からも「楽しかった、また参加したい」という嬉しい声を頂いています。防災を義務として難しく捉えるのではなく、ポジティブに身近なものとして考える機会となる助力ができれば幸いです。
- ・今後は生活者の「レジリエンス」に関する意識や行動など、「レジリエントライフ」の定着と進化を目的にした調査や分析を行う「レジリエントライフシンクタンク」にも注力していき、個人の「レジリエンス」の測定とその活用法や向上のためのコンサルティングも展開できればと考えています。

問合せ先

レジリエントライフプロジェクト（RESILIENT LIFE PROJECT）
E-Mail : rlp@i-resilience.co.jp
URL : <https://resilient-life-project.i-resilience.co.jp/>

動画



サイト URL

